

研究会「長期予報と大気大循環」のご案内

「長期予報研究連絡会」では右記の予定で研究会「長期予報と大気大循環」を開催します。

今年のテーマは「十年規模変動～地球温暖化の停滞、天候への影響～」です。世界の年平均気温は、1891年以降に100年あたり約0.68℃の割合で上昇しており（2013年1月現在）、特に1970年代から1990年代にかけて明瞭な上昇傾向が見られていました。その一方で21世紀に入ってからは、世界の年平均気温の上昇がほぼ横ばいの状態を示しています。このような状態は“地球温暖化の停滞”と呼ばれ、これをもたらしたメカニズムを探る研究が世界各国で盛んに行われるようになり、大西洋数十年規模振動（AMO）や太平洋十年規模振動（PDO）などの自然変動の影響が明らかになってきました。また、2000年頃から続く負のPDOの東アジアの天候への影響も現れています。

本研究会では、十年規模変動と“地球温暖化の停滞”との関連を考察し、さらには最近の天候への影響を議論することを目的としています。また、メカニズムから予測まで十年規模の変動に関連する幅広い話題

提供をしてくださる方もお待ちしております。

講演申し込み締め切りは2013年10月30日（水）です。講演を希望される方は、右記連絡先まで電子メールで簡単な要旨（テキスト数行程度以上）をお送りください。1講演あたりの講演時間は20分程度を予定しています。また、発表された方には、研究会後に当会のホームページに掲載する要旨（A4、4ページ程度）を作成していただきます。

なお、講演のプログラムは2013年11月8日（金）までに当会のホームページに掲載する予定です（<http://www.metsoc.or.jp/LINK/LongForc/index.html>）。

記

日時：2013年11月26日（火）14時00分～17時30分

場所：気象庁3023会議室

テーマ：十年規模変動～地球温暖化の停滞、天候への影響～

連絡先：原田やよい（気象庁気候情報課）
extreme@met.kishou.go.jp